

海産物の加工販売ときれいな海づくりに取り組んで

下風呂漁協婦人部
部長 葛西 恭子

1. 地域の概況

風間浦村は下北半島の西北部に位置し、津軽海峡を隔てて北海道と相対している海に臨む村である。国道279号線、別名はまなすラインの沿線に下風呂、桑畑、易国間、蛇浦の4集落がある。

人口は約3,180人、面積69.56Km²で、気象は、春から夏にかけて偏東風が吹き、冬期には偏西風が吹き、年平均気温は9.5℃と冷涼なところである。古くから、豊富な磯資源を中心とした漁業と下風呂温泉の観光により発展してきた。

下風呂温泉は、私達の住む下風呂地区にあり、イカ釣り船のいさり火の見える湯治場ということから全国各地から観光客が訪れ、井上靖の小説「海峡」で紹介されてからは一躍有名になった。

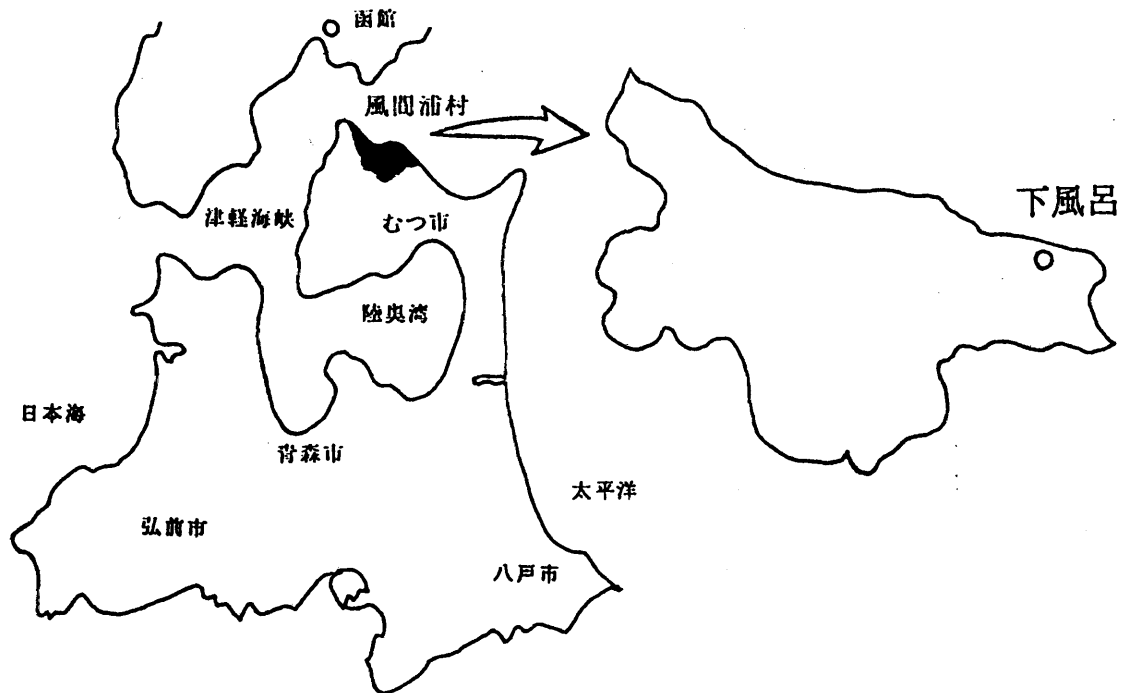


図1 位置図

2. 漁業の概況

下風呂漁業協同組合は、平成7年度の組合員数258名（正組合員144名、准組合員114名）、所属漁船数229隻で、イカ釣り漁業が主体であり、他に小型定置網漁業や採介藻漁業が営まれている。

平成7年度の販売取扱高は1,119,737Kg、金額で537,258千円に達している。主要漁種はスルメイカで、数量では73%、金額では60%と最も高い割合となっている。

3. 婦人部の組織と運営

下風呂漁協婦人部は、昭和36年に約100名の部員で結成した。しかし、昭和50年代にはいと婦人部活動が衰退し部員数も10名ぐらまで落ち込んだ。そこで、昭和63年から平成元年にかけて再出発をめざし新しく部員を募集したところ59名が賛同し、女性の知恵と技を活かした特産品づくりによる地域おこしを目指して、平成2年5月26日に新婦人部が結成された。

現在は、部員数47名、5班体制で活動している。組織体制は、各班から2名の役員を輩出し、部長1名、副部長1名、理事5名、書記会計1名、監事2名で構成している。活動状況は表1に、年間スケジュールは表2に示した。活動資金は、年会費、漁協からの助成金、加工品の受託料、販売利益をもって運営している。

表1 下風呂漁協婦人部の主な活動

活 動 内 容		平成						
		2	3	4	5	6	7	8
イ ベ ン ト	風間浦村物産フェア(風間浦村)	—————						
	風間浦村産業祭り (")		—————					
	布海苔採り体験ツアー(")				—————			
	元祖活イカすくい大会(銀座)					—————		
	電気のふるさと自慢市(千葉)					—		
	下北半島まつり(上野)					—		
加 工	料理、水産物加工研修会	—————				—————		
	水産物開発販売振興協議会委員					—————		
	" 包装作業、販売活動					—————		
	スキコンプの試作						—————	
環 境	漁港周辺清掃	—————						
	ゴミ箱設置						—————	
	花壇づくり						—————	
	わかしお石けんの推進				—————			
	洗剤の減量運動				—————			
研 修 ・ 交 流 会	下北地域漁協婦人部連絡会		—————					
	AMLS協議会(上記名称変更)					—————		
	下北・函館漁協婦人部交流会		—————					
	榎法華漁協婦人部交流会				—————			
	いさりびの里活性化推進協議会			—————				
	いで湯の里学級(公民館活動)					—————		

表2 年間スケジュール

月 日	事 業 内 容	場 所
1月 4日	消防団出初式(1名)	
1月 6日	物産品開発協議会中間報告(1名)	
1月 8日	下風呂漁協新年会(1名)	
1月 9日	婦人部会員交流会(25名)	扇谷旅館
1月10日	いで湯の里学級実行委員会(1名)	下風呂公民館
1月11日	動力船組合海上安全祈願祭(1名)	下風呂公民館
1月12日	県青壮年婦人活動発表会(10名)	青森
1月20日	役員会	下風呂公民館
1月24日	ふのりツアー用ふのり袋詰め(3名)	下風呂公民館
1月30日	料理教室(17名)	組合
1月31日	第1回ふのり取りツアー	
2月15日	第2回ふのり取りツアー	
2月19日	いで湯の里学級、芸能発表会	
2月20日	下北漁婦連役員会(1名)	むつ
3月 1日	第3回ふのり取りツアー	
3月 4日	第4回ふのり取りツアー	
3月 6日	役員会	
3月14日	漁協婦人部、JA女性部、生活改善グループ、VIC・ウーマン4団体による意見交換	むつ
3月15日	第5回ふのり取りツアー	
3月18日	第6回ふのり取りツアー	
3月20日	下北漁婦連総会(14名)	むつ市漁協
3月24日	第6回婦人部総会	下風呂公民館
4月14日	第47回婦人週間 話題提供(葛西)(6名)	青森文化会館
4月27日	AMLS協議会役員会(1名)	むつ大魚
5月 7日	消防団観閲式(1名)	
5月 8日	AMLS協議会広域活動(1名)	脇野沢~むつ
5月17日	役員会	組合
5月28日	漁港周辺清掃作業(22名)	
6月 1日~ 2日	函館下北婦人交流会(2名)	佐井
6月 6日	AMLS協議会研修会	むつ大魚
6月 7日	下風呂小学校運動会参加	
6月15日~17日	志賀原発視察(17名)	
6月26日	県婦人部総会(2名)	青森
7月13日	物産フェア出店者会議(1名)	商工会
7月15日	漁港へゴミ箱2ヶ設置	
7月31日~23日	ふのり、わかめ、こんぶ、ひじき袋詰め	下風呂公民館
9月 4日	大畑水産普及所と婦人はつらっライフ事業について話し合い(1名)	組合
9月 6日	役員会	
10月22日	AMLS協議会強化研修(2名)	むつ大魚
11月 2日~ 3日	風間浦村産業文化まつり	
11月 8日~11日	元祖活イカすくい大会(5名)	銀座
11月16日~17日	婦人はつらっライフ事業研修(7名)	八戸、宮古
12月 4日	いで湯の里実行委員会	

4. 活動課題選定の動機

少人数の婦人部であるため思いついたことは即行動してきた。しかし、婦人部員だけで出来る活動には自ずと限界があるので、他の団体や地域と手をつなぎ活動の輪を広げることで地域活性化につながる活動を主体にすることとしている。部員みんなが参加できるような体制づくりをしながら、次の2つの活動を重点的に取り組むことにした。

- 1) 村では物産フェアを実施していたが、今一つ活気に欠けていたところに、村唯一の漁協婦人部の私たちにイベント参加の機会が巡ってきた。消費者との交流や販売することに慣れていなかったのが不安もあったが、持ち前のかあちゃんパワーで用意した商品は完売することが出来、婦人部の結束を強める大きな原動力となった。さらに、婦人部の活動資金づくりだけでなく個人の所得向上に結びつけたいという部員の希望もあり地域特産品づくりに取り組むことになった。
- 2) 近年、海が汚染され漁港周辺のゴミの量も増えてきており深刻な問題になっている。そこで、生活の糧である海を守り、集落の景観づくりをすすめることが、水産業の発展と観光地としてのイメージアップとなり地域の活性化に結び付くと考え、せっけんの普及推進はもちろんのこと海岸の清掃や集落及び公園の花壇整備に取り組むことにした。

5. 活動状況及び成果

1) 消費者との交流活動とイベントへの参画

下風呂温泉や特産であるイカ、海藻類等の資源を活かしたイベントに参加する機会を与えられるようになり積極的に参加している。郷土料理の紹介、特産品の利用方法の説明や試食、販売を実施し自分たちが培ってきた知恵や技術を発揮している。販売活動で得た利益は婦人部の活動費にし、研修会や婦人団体の交流に役立てている。

表3 婦人部の参画しているイベントと活動内容

イベント名 (時期・場所)	内 容
海峡フロンティアフェスティバル物産フェア (7月・風間浦村)	新鮮な朝イカ、いかめし、イカダンゴ、おでん 海産物の販売
風間浦村産業まつり (11月・風間浦村)	フノリ、ワカメ、ヒジキ等の海産物の販売 地元でとれる魚や海藻料理の普及 わかしお石けんの普及、アクリルタワシの販売
布海苔採り体験ツアー (1, 2月・風間浦村)	貝焼きやふのり汁などの郷土料理と郷土芸能で 観光客と交流、フノリの普及
銀座活イカつかみ取り、烏賊様レース (11月・東京都)	出陣式においてイカ料理で激励、イベント場所 の設営 温泉とイカの町、海の町をPR 特産品の利用方法の説明と販売

イベントに参加してから婦人部員が自信を持って活動するようになり、周囲から認められるようになり、現在は女性の立場でイベントの企画の段階から参画している。他にいさりびの里活性化推進協議会やいで湯の里学級等の委員に推薦され、女性の意見反映の場に意欲的に参加し、女性にもっと研修の場を増やし能力発揮できる環境づくりの必要性を提言し、充実した公民館活動や県外研修の機会が巡ってくるようになった。

また、消費者との交流も今では積極的にするようになり、観光客からは心がなごむ婦人部員の接客態度が好評で、各イベントにおいて毎年訪れる固定客が増え、その人達の口コミにより客層も広がってきている。

2) 婦人部員に賃金を支払える特産品づくり

平成6年に風間浦村特産品開発推進協議会が発足し、海藻類の特産品づくりに婦人部も委員の一員として企画の段階から取り組んできた。フノリ、ワカメ、ヒジキ、コンブの乾物が商品化され、婦人部ではその袋詰め作業を請け負うことにした。作業で得た収益は、従事した部員の賃金と、婦人部の活動費にしている(表4)。賃金は婦人部員自身が自由に使える収入であり、婦人部員のやる気や活発な活動につながっている。

このような活動で学んだことを活かし、平成7年度から海藻類の加工に取り組んでいる。県水産物加工研究所や優良事例を視察研修し、村内の漁協の協力を得て今年度スキコンブを試作した。このような海藻類の加工品を婦人部で商品化し、地元温泉内のホテルや旅館・民宿で販売する等、生産加工を拡大すればコストも低減され、お互いのメリットにつながり、村の活性化になると考えている。

表4-1 袋詰め作業による収益と販売活動の売上

年 度	収 入	賃金(個人の収入)	利益(婦人部の収入)
6	977,672円	745,410円	232,262円
7	892,783	480,195	412,588
8	376,810	301,448	75,362

*平成8年度(10月現在)は、袋詰め作業のみの実績

4-2 袋詰め作業実績

	数 量 (個)	内 容
6	12,805	フノリ、ワカメ、ヒジキ、コンブ
7	8,562	フノリ、ワカメ、ヒジキ
8	5,383	フノリ、ワカメ、ヒジキ

*平成8年度は10月現在の数量

受託料・・・1袋 70円 (7割は部員の賃金、3割は婦人部の活動費)

時給換算550～650円

3) 集落の景観づくりと碧い海を守る運動

婦人部では、再結成した年に漁港周辺のゴミ拾いや草取りを実施した。しかし、漁港周辺は業務用のゴミも年々増え、婦人部員だけでは処分できず煩雑になっていた。そこで、漁協や行政、更に地元給油所や資材会社にも働きかけ、平成6年から一丸となって清掃作業を行ってきている。最初の年は2tトラック2台分ものゴミを処分した。漁業者の認識も深まり翌年からゴミの量が大きく減量し漁港周辺も整頓されるようになってきている。今年度は花づくりに興味のある地元婦人会と分担して温泉入口の傾斜地と漁港、公園内にサルビアとマリーゴールドの花壇づくりを実施し、観光地としてのイメージアップにつながった。

清掃活動と平行してすすめている活動に、碧い海を守る運動がある。これは、下風呂婦人部だけでなく、平成3年度に下北地域の11の漁協婦人部員が一緒になって組織したAMLS協議会でも研修し情報交換しながら取り組んでいる。これまでは、きれいな海づくりの標語を看板やポスターで掲示したり、わかしお石けんを推進してきており、婦人部員の意識も変化し海の汚染防止への関心が高まってきている。その他に下風呂婦人部では、洗剤をなるべく使わないで食器を洗える和布やアクリルタワシにも取り組み、使って良かったものは、地域の産業まつり等で展示販売するなど消費者へのPR活動も行っている。

*AMLS(アムレス)協議会とは、Active Marine Lady 下北のそれぞれ頭文字をとって「行動する海の女性」の意味

6. 波及効果

婦人部活動が地域や各団体と手をつなぎ協力しあって取り組んできたことにより、全ての活動に相乗効果があったと感じている。

婦人部が取り組んだ特産品の加工・販売活動は海産物の価格が低迷する中で、アイデア次第で所得向上に結び付くことが分かり、AMLS協議会の会員である下北郡内の漁協婦人部が海産物への付加価値づくりに興味をもつきっかけとなり、流通研修や加工品の評価会を開催するようになってきている。

景観づくり活動では、婦人部員だけで始めた清掃作業は地元給油所や資材会社に呼びかけた結果、漁港で働く者一人一人がゴミの減量や景観を損ねないように心がけるようになった。

7. 今後の課題

現在取り組んでいるスキコンブを商品化し販売することで所得向上に結びつけ、地域内で生産、加工、消費する方法を考え少しでも村全体の経済を向上させる活動に取り組んでいきたい。

婦人部活動の目標である碧い海を守るためにAMLS協議会で自然環境に関するフォーラムを開催する等知識を深めてきているので、今後漁業者だけでなく、林業、農業、地元や都市部の消費者を含めた森づくりや海の汚染防止に取り組んでいきたいと思う。

下風呂漁協婦人部活動状況

春の清掃活動



銀座イカすくい大会における販売のようす



スキコンブの乾燥作業

